

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合っ作成した事業所理念を施設内に掲示している。また職員の名札裏にも理念を記載すると共に、事例検討や内部研修時等に振り返りの機会を設け、理念に基づいたケアが提供できるよう取り組んでいる。	開設時に全職員で話し合い作り上げた事業所理念はユニット入口に掲示している。また、職員は理念が記載された名札を常時携帯し意識付けを図っている。2ヶ月毎のユニット会議で行うケアプランの見直し時や研修会におけるケアの振り返りの際には理念に沿った実践に繋がるよう話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として地域行事開催の打ち合わせへの出席や、行事見学、防災訓練に参加している。また回覧などで自治会の情報を得ている。	自治会に入会しており回覧板にて佐渡市や近隣地域の情報を得ている。おかげで今年も地域の運動会に参加したり、祭りを楽しむことができた。地区の防災訓練には毎年参加しており、地域ルートでの訓練も行っている。高校生、中学生のボランティア訪問では利用者と一緒に作品制作を行ったり、演奏を鑑賞するなど交流を図っている。近隣住民より野菜の差し入もあり日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民後見人養成講座で認知症ケアの理解と支援について伝えることができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している運営推進会議にて、施設の現状や問題点、取り組み状況などを説明し、各委員から意見や要望をいただき、施設の運営に活かしている。	市の担当者、住民代表、家族代表、利用者代表の構成員にて定期に開催している。事業所からは運営状況、活動状況、事故・ヒヤリハット等の報告が行われている。構成員からは報告についての質問や感想とともにケアに関する設備提案なども出されるなど、双方向の話し合いが行われている。今後は災害時の協力依頼などを提案していこうと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に、市の担当者に日常の取り組み内容や問題点の報告に併せ、身体拘束の適正化委員会についても報告を行い、意見をいただいている。	市の担当者とは運営推進会議にて日頃の取り組みを報告するとともに助言をもらっている。随時事故報告、給付、更新時など連絡・相談・報告を行っており、また、研修案内や交流会参加のお知らせをもらうなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通じて、身体拘束等の適正化のための指針の内容を周知し、身体拘束の対象となる具体的な行為について学んでいる。施設玄関の施錠は防犯上、20時～6時までとし、日中は開錠し、入居者の行動に制限は行っていない。	3ヶ月毎に管理者、ユニット長、職員にて身体拘束に関する委員会を開催し、指針の読み合わせ、日々のケアの振り返りから身体拘束に該当すると思われるケアの確認を行い課題を抽出している。課題解決のために委員会で確認された事項をユニット会議で話し合ってもらうとともに必要なオンライン研修を年2回実施し意識付けを語り防止に繋げている。現在、2名の利用者が人感センサーを使用しているが、職員は危険防止が目的であることを共通理解し活用している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会において虐待防止のための指針内容の確認を行い、高齢者虐待防止法や事例について学んでいる。また、法人内研修や伝達研修にて職員のメンタルヘルス研修を実施し、職員の心の健康維持を図っている。	虐待防止委員会を中心に身体拘束防止と同じ体制にて取り組みを行っている。法人主催で実施される毎年テーマを決めてのメンタルヘルス研修を受講し、職員の精神的負担の軽減を図ることで不適切ケアから虐待に繋がらないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用されている入居者の事例や研修を通じて学んでおり、他の入居者への必要性の検討を重ねている。また、必要性を感じる方に対しては、入居時等に関係者へ説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定の際は利用者や家族等に対し、わかりやすい説明を心掛け、疑問点を解消し納得していただけるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に家族等と一緒に話す時間を設けたり、散歩や入浴時に入居者と1対1で接する機会などを活用して入居者・家族等の意見や要望を引き出せるよう工夫を行っている。入居者のご家族からのご意見等をいただくことができるよう意見箱を設置し、問題と感ずるご意見等に関しては、ユニット会議などで速やかに共有し改善につなげている。	面会の折や、プランの見直し、日用品の補充依頼の電話連絡時に家族の意見や要望を聞く機会としている。利用者の思いは入浴時や居室で1対1になった時など日々の関わりの中で把握するよう努めている。意志表現することが困難な人には職員の方から積極的に話しかけたり会話の工夫を行いながら、思いを引き出せるように関わっている。出された要望等は連絡ノート等に記載して情報の共有を図り検討しながらケアに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットで管理者も参加し、概ね2カ月毎にユニット会議を開催している。会議では自由に意見等を出し合い議事録を所属長等に報告している。 また上期下期の人事評価では、職員との面談にて意見を出し合い、モチベーションを維持できる職場環境の整備を心掛けている。	管理者は日々の業務の中で、ユニットリーダーや職員からケアに関する意見や要望を聞いている。また定期に開催するユニット会議は職員の意見要望を聞く機会となっている。出された内容は申し送りノートに記載し、必要時ユニット会議にて話し合いをするなど情報の共有を図り、必要時に上申してサービスに繋げている。目標管理シートを活用した人事評価を定期的実施し面談では意見を聞く機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人全体で職員の資格取得を奨励しており、費用等の助成や資格手当の支給、取得方法の情報提供などを行っている。年度の上期と下期で人事評価を実施し、目標に対し、職員自身の自己評価を確認し、業務内容をステップアップにつなげられるよう意識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で年間研修計画を作成し、外部・法人単位・所属単位・事業所単位等の研修を職員一人ひとりのキャリアや力量に応じて受講できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自事業所含め島内9カ所の全グループホームが参加するグループホーム協議会を設置し、意見交換の場を設けている。必要時は電話等で情報交換し、互いのサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に日常生活に関する調査票に基づき本人の状態を把握し、不安や要望を感じ取り信頼関係を築けるよう努めている。また入居前に施設見学をお勧めし、不安を軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に要望や困っていること等を把握し、問題解決の努力をするとともに、話しやすい関係となるよう信頼関係の構築に務めている。また、担当のケアマネジャー等から情報をいただき、支援につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの聞き取りや担当ケアマネジャーとの情報交換等から必要な支援を見極めている。必要時には各施設等と連絡を取り合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の能力に合った共同作業や行事等へ参加し、お互いが支えあって共に生活できるよう努力している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族および後見人の方のご意見・ご意向を確認し、入居者本人を主体と捉えた支援内容の共有を図っている。日常生活の様子・表情等の写真を添付したお便りを毎月ご家族へ報告している。面会制限を緩和し、感染対策に留意いただいたうえで同室での面会も再開している。	担当者は本人の日頃の様子を綴ったお便りを写真入りで作成し、毎月家族に送付し家族との絆づくりに努め協力関係につなげている。受診の付き添いや日用品の補充依頼、外出支援など、状況に応じて協力をお願いし共に支える関係を作っている。制限はあるが来訪時は本人と家族の時間となるよう居室での面会を再開している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区の防災訓練や文化祭への作品出展等、地域行事への参加や地域住民の方々との交流を継続している。面会については事前予約制であるが、ご家族が生活物品等を持参された際等も希望に応じ、面会していただくなど、ご家族との交流の機会を持っている。	家族、親戚、知人の面会が継続されている。真野地区の文化祭には作品を出展し、見学の折には地域住民との交流が図られている。家族との外出や自宅に外泊される人もいる。事業所車両で、真野公園の花見や妙宣寺の五重の塔を見に行くなど近隣ドライブに出かけ馴染みの場の継続支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間と散歩に出かける時間や、体操、集団レクリエーション活動等の機会を設け参加を促している。気の合う方々が談笑や軽活動等が行えるよう、ユニット内の座席の配置は自由席としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者の家族に対しても、いつでも相談ができることをお伝えし、必要時には医療機関や他施設への情報提供・手続き等の支援や相談等に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	先入観、パターン化した支援を避け、認知症状等に伴う言動等に注目し、不穏等の症状が見受けられる際は、原因や理由等に注目した支援を心掛けている。	日頃の関わりの中での会話、言葉、様子、表情を伺いながら、ユニットの内で情報を共有し本人の楽しみにしていることなど、意向や思いを把握するように努めている。意思疎通が困難な場合には家族や関係者に確認しながら本人本位の検討をするよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込み時の情報や事前面談時の情報把握を職員に周知し検討を行っている。入居後も日常の会話等から情報を引き出したり、家族や担当ケアマネジャーからも情報収集をしている。得た情報を介護記録やセンター方式に記入し、職員間で共有している。	計画担当者、管理者が事前面談を行い家族、本人から情報をもらいアセスメントシートに記載して情報の共有を図っている。入居後の関わりの中で得た新たな情報や、家族、関係者からの情報は介護記録やアセスメント用紙に追記して情報の共有を図りケアに繋げている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・ユニットの申し送りノート・バイタル測定表・朝礼での申し送り・定期的に行うユニット会議・私の基本情報シートなどを活用し、入居者の状況など職員間で現状把握・情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね2カ月毎に開催するユニット会議で入居者の情報を職員間で共有し、適した支援内容等の検討を行っている。介護計画書の作成、見直しの際は事前にご家族に要望や意向を確認し、本人の意向と照らし合わせて介護計画を作成している。	入居前に事前面談等において本人・家族の意向を確認し日常生活に関することや知り得た情報は「暮らしの情報シート」にまとめられ、それらを根拠に1ヶ月の暫定プランを作成している。ユニット会議で検討され新たな情報は追記しながら3ヶ月、1年と更新し、モニタリングは3ヶ月ごとに実施している。更新時の担当者会議には計画作成者・本人・家族(電話)・職員・管理者等で実施し、家族の同意を得ながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきや工夫を個別記録や申し送りノート、口頭などで情報共有している。概ね2ヶ月毎にカンファレンスを行い実践している。また介護計画書の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不定期ではあるが感染防止対策を徹底したうえで、ドライブ等の行事を開催している。また、感染対応の緩和と共にご家族との外出の制限を解除した。美容師の訪問による理容サービスも再開し、入居者は好みのヘアスタイルを喜ばれている。また今後も法人内の地域福祉担当者と連携し、地域行事への参加や交流等、積極的に図っていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや地元小学校との交流会、学生ボランティアや楽器演奏等の受け入れ等、地域とのかかわりの機会を設けている。また、地域の方から落花生をいただき、殻剥きの作業等を入居者が協力し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等が希望する主治医に受診できるよう対応している。受診時にはサマリーを作成し、医師と情報共有を行っている。受診結果や、医師の所見内容等をご家族に報告している。	入居時において本人・家族等の希望を尊重し納得が得られるかかりつけ医に受診できるよう支援している。事業所の協力医に移行を希望する家族が大半ではあるが、これまでのかかりつけ医を継続とする利用者も居られる。受診時はバイタルグラフ一覧表や情報シートを用意し医師との共有を図っている。法人内の看護師による週1回の訪問により利用者の健康管理も図られている。体調の変化等があった時は24時間いつでも相談や指示が仰げる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理、日々の状況の申し送り、情報の共有に努めるほか、緊急時の対応などについて指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は患者情報連絡票を用いて医療機関に情報提供を行い、入院中は面会や医師や看護師やケースワーカー等との情報交換を通じて状況の把握を行うことで、本人や家族が安心して治療できるように努めている。また、さどヘルスケアなび(りんくる)を導入し、役割等の理解を深め、関係機関と迅速、適切に連携が図れるよう学習を予定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、利用者の重度化、看取りに関する指針を提示し、重度化した場合や終末期のあり方について説明し、重要事項説明書に記名、押印いただいている。また状態の変化に応じて、本人、家族、主治医等と方針を協議、共有し不安の軽減に努めるとともに、他の介護施設利用についても支援を行っている。	管理者は契約時に重度化・看取りに関する指針を基に事業所での対応方針について説明し同意を得ている。事業所の現時点では終末期の介護は困難としているが、その時期と判断したときは家族・主治医等と話し合い、他の協力施設または地域の医療機関への入院が決まるまでの間は支援に努め家族の不安の軽減に努めるとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、AEDの使用訓練、応急手当や初期対応の訓練を定期的に実施するとともに、夜間の協力体制についてマニュアル等に明記し速やかに連絡がとれるようにしている。	急変や事故発生時に備え定期的にAEDの操作実習を身に着けるとともに消防署の協力を得て応急手当や初期対応の訓練を実施している。マニュアルの整備もされ対応手順がフローチャート化され、速やかに対応できるよう職員の目に入るところに掲示されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震発生、津波を想定した避難方法の研修を行った。実際に公用車を使用し避難場所まで避難誘導を行い、避難時の経路や場所、問題点を職員間で共有している。また、地域の自主防災会へ参加し地域との協力体制の構築に努めている。	昼夜間想定の下、年2回火災訓練を定期的に変更している。次回は11月実施予定である。地震や津波を想定した訓練も実施し問題点を洗い出し今後の課題として検討していくとしている。また、管理者は地域の自主防災会にも参加し役割を担うなど地域との関係性を深めている。災害時の備蓄品等は各ユニットごとに備えて管理されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として理解し、尊厳や人格の尊重を心掛けている。プライバシーを意識した言葉かけ、周囲からの視線に配慮した支援提供を行っている。	プライバシーに関しての研修も実施している。特に人生の先輩として謙虚な姿勢で一人ひとりに合わせて敬う姿勢で言葉掛けをしている。声の大きさに配慮したり、周囲から気づかれぬよう、さりげなく誘導したり、背後からの声掛けはしないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい言葉掛けや雰囲気作りに努めている。思いが伝えづらい方には選択肢を出し、本人が選びやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを維持するため、1日の流れを大まかに決めてはいるが、食事の時間や入浴の時間などは一人ひとりのペースや希望に合わせて柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師の利用を再開し、好みのヘアカット、カラー等を楽しまれている。着替えの際には衣類を自分で選べるよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を生かし、食器の片付け等に協力いただいている。畑作業を得意とされる入居者に助言いただき、ユニットの畑で野菜を栽培した。収穫した野菜や旬の食材、季節に合った食べ物を献立に取り入れ、日常の食事の雰囲気を楽しんで頂けるよう工夫している。	家庭で、その都度に献立を考えて調理するように、事業所でも1週間や1ヶ月前から献立を立てるのではなく、その都度に食材を見て不足なものは買い足し手作りしている。利用者と共に畑で栽培した様々な野菜を収穫したもの(カボチャや玉ねぎ・じゃがいも)が食卓に彩を添え、利用者の楽しみとなっている。行事の時にはいつもとは違う食事を用意して変化をつけている。利用者には食器の片づけやテーブル拭きなど、できる範囲で職員と共にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食の栄養バランスを考え、嗜好や体調に配慮し、身体状況に合わせた調理法で提供している。季節感を盛り込み色彩豊かにし、見た目も大切にしている。お茶やスポーツドリンク等の他にゼリーや果物を提供し、水分を摂取しやすいよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや支援をし、夕食後は義歯の消毒を実施している。また、外出後もうがいを促し、口腔内の清潔保持と感染予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い個々の排泄状況を職員間で共有している。紙パンツ・尿取りパット類は補助的なものと考え、排泄の失敗を予防できるよう、また、トイレでの排泄に意識を持って頂けるよう必要時に時間毎の声掛けを行っている。	排泄チェックシートを活用し、利用者の排泄リズムの把握に努めている。利用者一人ひとりに合った排泄用品を工夫しパット類はあくまでも補助的なものとして職員は認識し共有を図っている。利用者に合わせて定時に声掛けしたり、しぐさや表情をみながら失敗が無いように自立に向けた支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方された下剤や整腸剤を服用し、排便コントロールを継続している。また便秘予防に水分を積極的に摂って頂けるようお茶のみでなく、飲み物の種類を増やしている他、ゼリー等も提供している。また、体操や散歩などの軽運動の機会を設け、極力自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1～2日毎の入浴を実施している。菖蒲湯や柚子湯など入浴で季節を感じていただける工夫をしている。体調、希望に沿い本人のペースで入浴が行えるよう配慮している。	利用者一人ひとりの希望や、その日の体調、また気分にも応じて入浴できるよう柔軟に対応している。気分の乗らない利用者には時間を空けたり翌日にしたりと、週2回の入浴を基本に支援している。浴槽をまたぐ動作が困難な状態になった時はシャワーチェアで対応している。浴室からトイレ・脱衣所・洗濯室などが直結していて機能的な造りとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝食分離を心がけるとともに、安定した生活リズムを心掛けている。また、自室で自由に過ごされる時間に配慮するとともに、寝具、室温調整、照明等の生活環境等も配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の説明書を確認し、効能や副作用を理解するよう努めている。処方内容が変更になった時は申し送りをし、状態変化の確認を行い、必要時には主治医に相談している。服薬時には複数の職員で薬のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて調理・畑の水やり・掃除など役割分担をしている。趣味・嗜好品のある方に対しても個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策をしながら、季節の花見や紅葉狩りなど、季節の花々のドライブレクの機会を設けている。また近隣の散歩の機会を設け、気分転換を図っている。	季節によっては近隣の「真野公園」や寺院の五重の塔を見に行ったり家族の協力も得て受診時にドライブや外食などで気分転換を図っている。事業所の年間スケジュールでポタンの花見やお雛様・七夕・祭り・秋には紅葉かり・ドライブレクなど事業所の中だけに留まらない工夫がされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される物品の購入についてはご家族や後見人に相談し購入している。希望があれば本人の金銭所持も可能としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人と自由に連絡が取れるよう希望に応じて支援している。ユニット内での通話を気にされる方は事務所の電話を使用いただいている。また携帯電話の所持も制限していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット出入りに季節の花や、行事等の飾り(鏡もち、雛人形等)を設置し、季節を感じていただける環境づくりを行っている。また、雛人形に関しては飾りつけを入居者に協力していただき大変喜ばれていた。	両ユニットの入り口やテーブルには事業所の畑や周辺の秋の花々が来訪者を向かい入れてくれる。利用者は思い思いに寛ぎ談話をしている様子や洗濯物や雑誌が畳のこ上がりに置かれていたり裁縫をする人など日常の生活感が感じられる。自宅にいる感覚でいて欲しいという事業所の目指す思いが伝わり居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで自由に過ごして頂けるよう、また、自由に共同作業が行えるよう座席配置は固定していない。個々のペースを尊重し、自由に生活が送れるよう基本的に制限は設けず、入居者の方々の意向に沿った支援を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた物や馴染みの物を持ってきていただいている。タンス、テレビ、椅子、思い出の写真等も設置してもらい居心地良く過ごしていただけるよう支援している。	居室にはクローゼット・ベットが備えられており、本人が使い慣れたタンスや大切な家族の写真・仏壇やテレビなど思い思いに自由に居室づくりがされている。職員は利用者の動線の妨げにならないよう気を配り、事故の無いよう支援している。掃除の出来る人は職員と一緒にいき清潔が保たれ居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活行動の把握に努め、危険個所がないか確認し、行動や動線の妨げにならないよう配慮している。居室には名前や目印を表示し、分かりやすいよう工夫している。		